

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-108	高等学校	地理歴史	世界史探究	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7実教	世探 702	世界史探究		

1. 編修の基本方針

- 2条の目標を達成するため、次の通り編修した。
- ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、歴史学の新しい研究成果をとり入れ、さまざまな視点から世界史学習をより深めることができるコラム「Approach」「Skill Up」「Theme」を設けた（第1号）。
 - ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページに、本文を読む上で課題意識をもつことができる「Point」、資料を読み解き学習意欲を高める「Check」、学んだことを活用して考え、表現する「Try」など、さまざまな問いを段階的に設定し、世界史を主体的かつ多面的・多角的に考察・構想・議論することができるよう工夫した。さらに、本文ページで習得した知識を活用し、諸資料を使って多面的・多角的に考察・表現する特設ページ「ACTIVE 歴史を資料から考える」や、地図と諸資料を用いて同時代の世界を横断的に考察する特設ページ「□世紀の世界」を随所に設けた（第2号）。
 - ・正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、歴史的経緯をふまえた地球世界の課題について考察する特設ページを設け、生徒がよりよい社会を展望できるよう工夫した。また、本文記述とともにコラム「Approach」の「ジェンダー」カテゴリで、女性の政治参加を求める動きや社会的地位の変化を考察できるよう工夫した（第3号）。
 - ・生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、第1部で諸地域の自然環境の特色とそれに適応した人々の営みについて扱ったほか、気候変動が各地域の政治・経済・社会に与えた影響について記述した。また、第18章では地球環境問題と国際的な取り組みについて記述した（第4号）。
 - ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う観点から、各時代の日本の歴史について詳述したほか、コラム「Approach」の「世界と日本」カテゴリで世界と日本との関わりを示す事例を取り上げた（第5号）。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
前見返し	・自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、地勢図によって世界の自然環境を概観できるようにした（第4号）。	前見返し 1～2
世界史への まなざし	・自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、人類の歴史と地球環境の関わりについて記述した（第4号）。 ・生活との関連を重視する態度を養う観点から、人々の日常生活において身近な事象である通信とコミュニケーションについて取り上げ、その変遷と世界の歴史との関連性を記述した（第2号）。	p. 8～10 p. 11～13

諸地域の歴史的 特質への問い	<ul style="list-style-type: none"> 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、生徒が主体的に資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身につけ、自分自身の問いを表現することができるよう工夫した（第2号）。 	p. 14～15
第1章	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、歴史学の新しい研究成果をとりいれ、さまざまな視点から世界史学習をより深めることができるコラムを設けた（第1号）。 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページにさまざまな問いを段階的に設定し、世界史を主体的に考察・構想・議論することができるよう工夫した。また、諸資料を活用して多面的・多角的に考察・表現する特設ページを設けた（第2号）。 自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、西アジア・地中海沿岸、南アジア、東アジアの自然環境の特色とそれに適応した人々の営みについて記述した（第4号）。 	p. 19, 23 p. 18～31 p. 20, 26, 28
第2章	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、歴史学の新しい研究成果をとりいれ、さまざまな視点から世界史学習をより深めることができるコラムを設けた（第1号）。 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページにさまざまな問いを段階的に設定し、世界史を主体的に考察・構想・議論することができるよう工夫した。また、諸資料を活用して多面的・多角的に考察・表現する特設ページを設けた（第2号）。 男女の平等を重んずる態度を養う観点から、コラムで古代中国の女性、唐代の女性について取り上げた（第3号）。 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、9世紀までの日本の歴史について詳述した（第5号）。 	p. 34, 43, 53 p. 32～55 p. 38, 49 p. 39, 52～53
第3章	<ul style="list-style-type: none"> 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページにさまざまな問いを段階的に設定し、世界史を主体的に考察・構想・議論することができるよう工夫した（第2号）。 自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、東南アジアの自然環境の特色とそれに適応した人々の営みについて記述した（第4号）。 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、コラムでヒンドゥー教の神々と日本との関わりについて取り上げた（第5号）。 	p. 56～63 p. 61 p. 60
第4章	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、歴史学の新しい研究成果をとりいれ、さまざまな視点から世界史学習をより深めることができるコラムを設けた（第1号）。 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページにさまざまな問いを段階的に設定し、世界史を主体的に考察・構想・議論することができるよう工夫した。また、諸資料を活用して多面的・多角的に考察・表現する特設ページを設けた（第2号）。 男女の平等を重んずる態度を養う観点から、コラムで古代ギリシアと古代ローマの女性について取り上げた（第3号）。 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、コラムでペルシア文化の日本への伝来について取り上げた（第5号）。 	p. 78, 82 p. 64～87 p. 70, 79 p. 85
第5章	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、歴史学の新しい研究成果をとりいれ、さまざまな視点から世界史学習をより深めることができるコラムを設けた（第1号）。 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページにさまざまな問いを段階的に設定し、世界史を主体的に考察・構想・議論することができるよう工夫した。また、諸資料を活用して多面的・多角的に考察・表現する特設ページを設けた（第2号）。 	p. 91, 97, 99 p. 88～105

	<ul style="list-style-type: none"> ・男女の平等を重んずる態度を養う観点から、コラムでイスラームの女性について取り上げた（第3号）。 	p. 103
諸地域の交流と再編への問い	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、生徒が主体的に資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身につけ、自分自身の問いを表現することができるよう工夫した（第2号）。 	p. 106～107
第6章	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、歴史学の新しい研究成果をとりいれ、さまざまな視点から世界史学習をより深めることができるコラムを設けた（第1号）。 ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページにさまざまな問いを段階的に設定し、世界史を主体的に考察・構想・議論することができるよう工夫した。また、諸資料を活用して多面的・多角的に考察・表現する特設ページを設けた（第2号）。 ・男女の平等を重んずる態度を養う観点から、コラムで中世ヨーロッパの女性について取り上げた（第3号）。 ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、アラビア語起源の日本語の言葉について取り上げた（第5号）。 	<p>p. 122, 127</p> <p>p. 110～133</p> <p>p. 121</p> <p>p. 117</p>
第7章	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページにさまざまな問いを段階的に設定し、世界史を主体的に考察・構想・議論することができるよう工夫した。また、諸資料を活用して多面的・多角的に考察・表現する特設ページを設けた（第2号）。 ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、10～13世紀の日本の歴史について詳述したほか、コラムで朱子学の日本への影響について取り上げた（第5号）。 	<p>p. 134～155</p> <p>p. 141, 145～146</p>
第8章	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、歴史学の新しい研究成果をとりいれ、さまざまな視点から世界史学習をより深めることができるコラムを設けた（第1号）。 ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページにさまざまな問いを段階的に設定し、世界史を主体的に考察・構想・議論することができるよう工夫した。また、諸資料を活用して多面的・多角的に考察・表現する特設ページを設けた（第2号）。 ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、14～17世紀初頭の日本の歴史について詳述したほか、コラムで近世の琉球と蝦夷地、文禄・慶長の役がもたらした日本への文化的影響について取り上げた（第5号）。 	<p>p. 158, 165, 167, 168</p> <p>p. 156～173</p> <p>p. 161～162</p>
第9章	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、歴史学の新しい研究成果をとりいれ、さまざまな視点から世界史学習をより深めることができるコラムを設けた（第1号）。 ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページにさまざまな問いを段階的に設定し、世界史を主体的に考察・構想・議論することができるよう工夫した。また、諸資料を活用して多面的・多角的に考察・表現する特設ページを設けた（第2号）。 ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、江戸幕府初期～「鎖国」下の日本の対外関係について詳述した（第5号）。 	<p>p. 175, 177, 183, 184, 187, 189</p> <p>p. 174～189</p> <p>p. 188～189</p>
第10章	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、歴史学の新しい研究成果をとりいれ、さまざまな視点から世界史学習をより深めることができるコラムを設けた（第1号）。 ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページにさまざまな問いを段階的に設定し、世界史を主体的に考察・構想・議論することができるよう工夫した。また、諸資料を活用して多面的・多角的に考察・表現する特設ページを設けた（第2号）。 	<p>p. 193, 204, 205, 211</p> <p>p. 190～217</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・男女の平等を重んずる態度を養う観点から、コラムで近世ヨーロッパの女性について取り上げた（第3号）。 ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、コラムで『オランダ風説書』について取り上げた（第5号）。 	<p>p. 217</p> <p>p. 199</p>
諸地域の結合と変容への問い	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、生徒が主体的に資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身につけ、自分自身の問いを表現することができるよう工夫した（第2号）。 	p. 218～219
第11章	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、歴史学の新しい研究成果をとりいれ、さまざまな視点から世界史学習をより深めることができるコラムを設けた（第1号）。 ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページにさまざまな問いを段階的に設定し、世界史を主体的に考察・構想・議論することができるよう工夫した。また、諸資料を活用して多面的・多角的に考察・表現する特設ページを設けた（第2号）。 ・男女の平等を重んずる態度を養う観点から、コラムでフランス革命期の『女性の権利宣言』について取り上げた（第3号）。 	<p>p. 224, 225, 230, 232</p> <p>p. 222～241</p> <p>p. 236</p>
第12章	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、歴史学の新しい研究成果をとりいれ、さまざまな視点から世界史学習をより深めることができるコラムを設けた（第1号）。 ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページにさまざまな問いを段階的に設定し、世界史を主体的に考察・構想・議論することができるよう工夫した。また、諸資料を活用して多面的・多角的に考察・表現する特設ページを設けた（第2号）。 ・男女の平等を重んずる態度を養う観点から、コラムで近代社会の家族や女性について取り上げた（第3号）。 ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、コラムで岩倉使節団のヨーロッパ訪問について取り上げた（第5号）。 	<p>p. 246, 249, 251</p> <p>p. 242～261</p> <p>p. 261</p> <p>p. 252</p>
第13章	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、歴史学の新しい研究成果をとりいれ、さまざまな視点から世界史学習をより深めることができるコラムを設けた（第1号）。 ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページにさまざまな問いを段階的に設定し、世界史を主体的に考察・構想・議論することができるよう工夫した。また、諸資料を活用して多面的・多角的に考察・表現する特設ページを設けた（第2号）。 ・男女の平等を重んずる態度を養う観点から、コラムで近代日本・朝鮮の女性について取り上げた（第3号）。 ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、19～20世紀初頭の日本の歴史について詳述したほか、コラムでエルトゥールル号と日本、近代日本にやってきたムスリム、帝国主義時代のアフリカと日本の関係について取り上げた（第5号）。 	<p>p. 265, 266, 283, 287, 295, 297</p> <p>p. 262～299</p> <p>p. 294</p> <p>p. 275, 277, 280, 292～298</p>
第14章	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、歴史学の新しい研究成果をとりいれ、さまざまな視点から世界史学習をより深めることができるコラムを設けた（第1号）。 ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページにさまざまな問いを段階的に設定し、世界史を主体的に考察・構想・議論することができるよう工夫した。また、諸資料を活用して多面的・多角的に考察・表現する特設ページを設けた（第2号）。 ・男女の平等を重んずる態度を養う観点から、コラムで総力戦と女性、女性参政権の獲得、近代中国の女性について取り上げた（第3号）。 	<p>p. 303, 305, 309, 318</p> <p>p. 300～321</p> <p>p. 304, 312, 319</p>

第 15 章	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、歴史学の新しい研究成果をとりいれ、さまざまな視点から世界史学習をより深めることができるコラムを設けた（第 1 号）。 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページにさまざまな問いを段階的に設定し、世界史を主体的に考察・構想・議論することができるよう工夫した。また、諸資料を活用して多面的・多角的に考察・表現する特設ページを設けた（第 2 号）。 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、コラムでインドネシア独立戦争に関わった日本人について取り上げた（第 5 号）。 	<p>p. 324, 332, 335</p> <p>p. 322～347</p> <p>p. 344</p>
第 16 章	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、歴史学の新しい研究成果をとりいれ、さまざまな視点から世界史学習をより深めることができるコラムを設けた（第 1 号）。 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページにさまざまな問いを段階的に設定し、世界史を主体的に考察・構想・議論することができるよう工夫した。また、諸資料を活用して多面的・多角的に考察・表現する特設ページを設けた（第 2 号）。 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、コラムで湾岸戦争への日本の関わりについて取り上げた（第 5 号）。 	<p>p. 357, 361, 365, 367, 370, 373</p> <p>p. 350～377</p> <p>p. 369</p>
第 17 章	<ul style="list-style-type: none"> 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページにさまざまな問いを段階的に設定し、世界史を主体的に考察・構想・議論することができるよう工夫した。また、諸資料を活用して多面的・多角的に考察・表現する特設ページを設けた（第 2 号）。 男女の平等を重んずる態度を養う観点から、本文やコラムで 1960 年代後半のウーマン=リブ運動や現在にまで至る女性解放の動向について取り上げた（第 3 号）。 自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、戦後の高度経済成長にともなう環境破壊・公害の発生と環境保護運動の展開などについて取り上げた（第 4 号）。 	<p>p. 378～389</p> <p>p. 382～383</p> <p>p. 382</p>
第 18 章	<ul style="list-style-type: none"> 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページにさまざまな問いを段階的に設定し、世界史を主体的に考察・構想・議論することができるよう工夫した。また、諸資料を活用して多面的・多角的に考察・表現する特設ページを設けた（第 2 号）。 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う観点から、地球環境問題や感染症、科学技術と軍事技術など国際社会が取り組むべき課題について記述した（第 4・5 号）。 	<p>p. 390～397</p> <p>p. 390～392, 394～395</p>
地球世界の課題の探究	<ul style="list-style-type: none"> 公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、「紛争解決や共生」「経済格差の是正や経済発展」「科学技術の発展や文化の変容」それぞれについて探究活動の事例を取り上げ、生徒がこれまでの学習をふまえて、主体的に探究活動の見通しをもつことができるよう工夫した（第 3 号）。 	p. 398～403
後見返し	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、教科書や授業で学んだ内容をさらに探究していくことができるよう参考文献紹介を設けた（第 1 号）。 	後見返し 4

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 学校教育法第五十一条三項（社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと。）に即して、本文記述やコラム、特設ページなど教科書全体を通じて、国際社会に生きる高校生が世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象を理解し、現代の地球世界が抱える課題についても考察することができるよう配慮した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-108	高等学校	地理歴史	世界史探究	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7実教	世探 702	世界史探究		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

「歴史総合」で身につけた歴史の学び方をふまえ、世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、諸資料を活用しながら理解を深め、地球世界の課題とその展望を探究する力を養うことができるよう、下記の点について配慮した。

1) 海域アジア史，近現代東アジア史，ヨーロッパ中世史などをはじめ全編にわたって近年の研究成果をふまえ、世界史の大きな枠組みと展開を理解できるよう、丁寧にわかりやすく記述した。

2) 「知識及び技能」と「思考力，判断力，表現力等」を身につける学習が一体となって展開され，深い理解に至ることができるよう，全編にわたって課題（問い）を設定するなど配慮した。各節では，生徒が主体的かつ多面的・多角的に考察・表現することができるよう，以下のように課題（問い）を段階的に設定した。

①節タイトル下の問い

…その節で扱われる歴史の推移や展開を考察し，理解を促すための問い。

②Point

…生徒が課題意識をもって本文を読んでいくことを促す問い。

③Check

…資料を読み解く技能や，資料と本文内容を関連付けて考察する思考力を育成するための問い。

④Try

…その節で学んだことをふまえ，比較・関連付けや歴史的意義，現在とのつながりなどの観点から，生徒が自身の考えをまとめたり表現したりするなどして，より深い理解に至るための問い。

3) 本文ページで習得した知識をふまえ，諸資料を活用しながら多面的・多角的に考察・表現することで，思考力・判断力・表現力等を養うことができる特設ページ「ACTIVE 歴史を資料から考える」を，章の途中や章末に設けた。

4) 本文ページで習得した知識をふまえ，地図と諸資料を用いて同時代の世界を横断的に考察する特設ページ「□世紀の世界」を章の途中や章末に設けた。

5) B～Dの中項目（1）では，架空の先生・生徒が会話しながら資料を読み解き，問いや仮説を立てていく形式をとることで，それを参考にして，生徒が主体的に資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身につけ，自分自身の問いを表現することができるようにした。また，生徒が主体的に資料を読解し考察することを促すため，会話文の要所を空欄にして，そこに書き込む（会話に参加する）ことによって会話文全体が完成する，という体裁にした。

- 6) Eの中項目(4)「地球世界の課題の探究」では、「紛争解決や共生」「経済格差の是正や経済発展」「科学技術の発展や文化の変容」それぞれについて、「模擬国連」や討論・レポート作成を活用した探究活動の事例を取り上げ、生徒がこれまでの学習をふまえて、主体的に探究活動の見通しをもつことができるよう工夫した。
- 7) 新しい研究成果をふまえ、「比較」「結びつき」「社会」「ジェンダー」「世界と日本」「歴史と現在」という6つの視点から、多面的・多角的に世界史をとらえるコラム「Approach」を随所に設けた。そのうち「歴史と現在」では、過去の事象が現代的な諸課題の形成に深く関わっていることを認識できるよう、さまざまなテーマを取り上げた。
- 8) 新しい研究成果をふまえたコラムと資料読解を一体化させ、世界史学習を深めるとともに技能・思考力も育成することができるコラム「Skill Up」を随所に設けた。
- 9) 世界史学習における重要テーマをわかりやすく記述したコラム「Theme」を随所に設けた。
- 10) 著名な人物を取り上げ、歴史上に果たした意義や興味深いエピソードを記述した人物コラムを随所に設けた。
- 11) 概念用語をはじめ、本文を理解するうえで重要な歴史用語については、「Key Word」で丁寧にわかりやすく解説した。
- 12) ヨーロッパ史や中国史など、それぞれの地域の歴史を通して学習する際に役立つよう「地域別インデックス」を設けた。
- 13) 生徒が各時代における世界と日本の歴史を関連付けながら学習できるよう、コラム「Approach」の「世界と日本」カテゴリーで、世界と日本の関わりを示す事例を取り上げた。また、本文でも、近隣諸国との関わりの中なかで日本の伝統と文化がはぐくまれてきたことに留意しながら、日本史記述を充実させた。
- 14) 生徒が地理的条件と関連付けながら世界史を学習できるよう、第1部で諸地域の自然環境の特色とそれに適応した人々の営みについて扱ったほか、14世紀や17世紀など気候変動が各地域の政治・経済・社会に与えた影響についても記述した。
- 15) 第1～4部の冒頭には、部全体の歴史の流れを概観した文章と問いを設け、これから学んでいく内容を展望できるよう工夫した。
- 16) 教科書や授業で学んだ内容をさらに多面的・多角的に探究したり、世界史を学んでいくなかで生じた自分自身の問いを解決したりする手助けになるよう、読みやすい新書や文庫を中心とした参考文献紹介を後見返しに設けた。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
世界史へのまなざし 1 地球の誕生と生命の進化	A 世界史へのまなざし (1) 地球環境から見る 人類の歴史	p. 8～10	1
2 日常生活からみる世界史 ー通信とコミュニケーション	(2) 日常生活から見る 世界の歴史	p. 11～13	1
諸地域の歴史的特質への問い	B 諸地域の歴史的特質の 形成 (1) 諸地域の歴史的特質 への問い	p. 14～15	1
第1章 古代文明	(2) 古代文明の歴史的特質	p. 18～31	3
第2章 東アジアと中央ユーラシア	(3) 諸地域の歴史的特質	p. 32～55	6
第3章 南アジアと東南アジア		p. 56～63	3
第4章 西アジアと地中海周辺		p. 64～87	6
第5章 西アジア・地中海周辺の 変動とヨーロッパの形成		p. 88～105	5
諸地域の交流と再編への問い		C 諸地域の交流・再編 (1) 諸地域の交流・再編 への問い	p. 106～107
第6章 イスラーム圏の拡大と ヨーロッパ社会の変容	(2) 結び付くユーラシアと 諸地域	p. 110～133	6
第7章 中央ユーラシアと 諸地域の交流・再編		p. 134～155	6
第8章 大交易時代		p. 156～173	5
第9章 アジア諸地域の帝国	(3) アジア諸地域と ヨーロッパの再編	p. 174～189	6
第10章 近世ヨーロッパの形成と 展開		p. 190～217	8

諸地域の結合と変容への問い	D 諸地域の結合・変容 (1) 諸地域の結合・変容 への問い	p. 218～219	1
第11章 産業革命と大西洋革命	(2) 世界市場の形成と 諸地域の結合 (3) 帝国主義と ナショナリズムの高揚	p. 222～241	5
第12章 近代ヨーロッパ・ アメリカの国民国家		p. 242～261	6
第13章 地球をおおう帝国主義と 世界諸地域の抵抗		p. 262～299	10
第14章 第一次世界大戦と 諸地域の変容		p. 300～321	6
第15章 第二次世界大戦と 戦後の国際秩序		(4) 第二次世界大戦と 諸地域の変容	p. 322～347
第16章 冷戦と現代世界	E 地球世界の課題 (1) 国際機構の形成と 平和への模索	p. 350～377	6
第17章 世界経済の展開	(2) 経済のグローバル化と 格差の是正	p. 378～389	3
第18章 科学技術の時代と 知識基盤社会	(3) 科学技術の高度化と 知識基盤社会	p. 390～397	2
地球世界の課題の探究	(4) 地球世界の課題の探究	p. 398～403	2
		計	105